

は斷じて許可を與へざるなり。又露國が有する電信線を、其の一端末なる塔爾巴哈臺より烏魯木齊に延長し、更に烏魯木齊より他の一端末なる伊犁に連絡し、此に回環線を作らんとするも、清國の拒絶に遭ひて果さざるの現況に在り。

將來に要
する施設

要するに、新疆省の地形、人種、言語、宗教、風俗、習慣、及經濟情態は支那本部よりも寧ろ露領土耳其機斯坦に酷似せるが故に、露人の之に垂涎するは、理由なきに非ず、因て之れが境上に向ひ、鐵道及道路を修め、都市を設け、殖産を奨勵し、軍備を更張し、其の勢力は隆々として日に其の地歩を固め、全省をして露化せしめずんば已まざるの勢あり。清國は之に反し、鐵道の布設は勿論、其他諸般の施設、一も觀るべきもの無く、今日之が對抗策を講じつゝ在るも、時機既に遅しと謂はざるべからず。然れども爲さずして徒らに露化し了るを俟つに優ること萬々、或は其の施設方法に依りては、意外の効果を奏するを得ん。單に露國の請求を謝斷するの消極的手段を取らずして、緊禪一番、積極的方針に出でざるべからず。然らずんば『岌々乎殆哉』を、三たび絶叫せざるべからざるなり。